

若者まちづくり会議

わかまち
カフェ

(H26-第1回)

を開催しました

平成26年11月15日(土)えきまえ図書館本の杜にて

若い人たちの意見・提案を市政に反映させる機会を増やすために昨年からはまった「若者まちづくり会議」。

今年度は愛称を「わかまちカフェ」にして、少しだけ違った切り口で話し合っていきます。

第1回目では、昨年のまちづくり会議でまとめた理念(将来像)をもとに、まちづくりのアイデアを出し合いました。

◆ 昨年のふりかえり

事務局から、昨年のワークショップのふりかえりがありました。昨年は2回開催し「人口減少・将来の南魚沼市」をテーマにし、人口が確実に減少する将来の南魚沼のために～今私たちができること～をベースに「どんな南魚沼市になるといいかな」について話し合いました。

1回目で、こうなってほしい将来の南魚沼市の理念として

**「資・働・育・愛で、地域人もつながる
安心して住み続けられるまちにしたい！」**

としてまとめました。

2回目は資・働・育の3つのテーマについて、

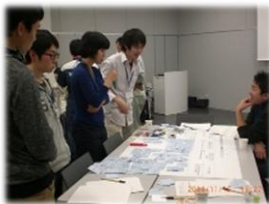
「こういう方法をとれば、それに近づける」と思うアイデアを出し合い、テーマごとに出されたアイデアを基に「方針と方策」を考えました。

◆ 今日のテーマと、関連する市の施策

事務局から、今日のテーマと、それに関連する現在の市の取組みについて説明があり、アイデアを出すヒントとしました。

今日は、以下の3つの目指す街の姿に関して昨年導き出された方向性について、現状・課題やあるべきすがたなどについて考えます。

- ・[資]南魚沼市の地域資源が活かされるまちにしたい
- ・[働]若者が働きやすい、にぎわいあるまちにしたい
- ・[育]子どもが育つまちにしたい。子どもが育てやすいまちにしたい



□ ワークショップの開始です

今年も、(一社)まちネット育ちの種川島崇照さんからファシリテーターを務めていただきました。

◆ 和気あいあいと意見交換

当日のワークショップではワールドカフェという手法で行いました。テーマごとにテーブルをつくり、自分が参加したいテーマの席についてとどんでん意見を出し、30分程度で席替えをしながら皆さんと意見を共有していくものです。飲物やお菓子をつまみながら語り合う、名前の通りカフェのような雰囲気が特徴です。

◆ 4テーブルに分かれてワーク

参加者が30分ごとに3つのテーブルを回り、意見を出し合いました



「[資]南魚沼市の地域資源が活かされるまちにしたい」のテーブル1



「[育]子どもが育つまちにしたい。子どもが育てやすいまちにしたい」のテーブル



「[資]南魚沼市の地域資源が活かされるまちにしたい」のテーブル2



「[働]若者が働きやすい、にぎわいあるまちにしたい」のテーブル

◆ 最後に、各グループの発表です

- ・各グループがワークのまとめを発表します。





1-1 南魚沼市の地域資源が活かされるまちにしたいのテーブル

【目指すまちの姿】

1-1 南魚沼市の地域資源が活かされるまちにしたい。

昨年のワークショップで導き出された方向性	現状はどうなっている？その課題や問題はどこにある？	将来あなたが目指したい南魚沼市のすがたは？(具体的に)	アイデア策・意見
(例) 安全安心な〇〇市をつくる	(例) 災害が起きてもどこへ逃げがたらいいかかわらない	(例) 災害でも被害にあわない強いまち	(例) 町中に避難所へ誘導する看板などのサインを設置する。
南魚沼市にある地域資源を(例えば、燃料や発電等のエネルギーとして)活用する方法を考える	<p>燃料の活用</p> <p>地域資源の活用</p> <p>エネルギーを地域地産できる</p> <p>エネルギーを地域地産できる</p> <p>エネルギーを地域地産できる</p>	<p>エネルギーを地域地産できる</p> <p>エネルギーを地域地産できる</p> <p>エネルギーを地域地産できる</p> <p>エネルギーを地域地産できる</p> <p>エネルギーを地域地産できる</p>	<p>アイデア策・意見</p> <p>町中に避難所へ誘導する看板などのサインを設置する。</p> <p>町中に避難所へ誘導する看板などのサインを設置する。</p> <p>町中に避難所へ誘導する看板などのサインを設置する。</p>
南魚沼市の地域資源に新しい魅力を加えて、商品を開発し、販売する	<p>登山道</p> <p>登山道</p> <p>登山道</p> <p>登山道</p> <p>登山道</p>	<p>登山道</p> <p>登山道</p> <p>登山道</p> <p>登山道</p> <p>登山道</p>	<p>アイデア策・意見</p> <p>町中に避難所へ誘導する看板などのサインを設置する。</p> <p>町中に避難所へ誘導する看板などのサインを設置する。</p> <p>町中に避難所へ誘導する看板などのサインを設置する。</p>

2014

働

2 南魚沼市を若者が働きやすい、にぎわいあるまちにしたい のテーブル

【目指すまちの姿】

2 南魚沼市を若者が働きやすい、にぎわいあるまちにしたい

昨年のワークショップで 導き出された方向性	現状はどうなっている？ その課題や問題はどこにある？	将来あなたが目指したい 南魚沼市のすがたは？ (具体的に)	アイデア策・意見
(例) 安全安心な〇〇市をつくる	(例) 災害が起きてでもどこへ逃げがたらいいかわらない	(例) 災害でも被害にあわない強いまち	(例) ・町中に避難所へ誘導する看板などのサインを設置する。
これからの世代が起業し やすいような環境やし くみを南魚沼市につくる	テナントが 高い → 1階が でらるが、 2階も つぎは？	シニア 災害 対策 の 対策 の 対策	PRの PRの PRの PRの PRの
南魚沼市の起業家の商 品・サービスがより普及 していくためのしくみをつくる	組合 連携 の の の	外国 の の の	企業 の の の
若い人が駅前や商店街、 都市機能の拠点に、商業 としてのにぎわいを生み 出す仕組みをつくる	フロント の の の	いろいろ の の の	どの の の の

2014/11/15 17:15

奥に
つる



3 南魚沼市を子どもが育つまちにしたい。子どもが育てやすいまちにしたい。 のテーブル

【目指すまちの姿】

3 南魚沼市を子どもが育つまちにしたい。子どもが育てやすいまちにしたい。

<p>昨年のワークショップで 導き出された方向性</p>	<p>現状はどうなっている？ その課題や問題はどこにある？</p>	<p>将来あなたが目指したい 南魚沼市のすがたは？ (具体的に)</p>	<p>アイデア策・意見</p>
<p>(例) 安全安心な〇〇市をつくる</p> <p>親子が安心して暮らせる 南魚沼市をつくる</p>	<p>(例) 災害が起きてどこへ逃げがたらいいかかわらない</p> <p>子どもが安心して暮らせる 南魚沼市をつくる</p>	<p>(例) 災害でも被害にあわない強いまち</p> <p>子どもが安心して暮らせる 南魚沼市をつくる</p>	<p>(例) ・町中に避難所へ誘導する看板などのサ...</p> <p>アイデア策・意見</p>
<p>親子が共に学び育つ南魚沼市をつくる</p>	<p>親子が共に学び育つ南魚沼市をつくる</p>	<p>体験して学ぶまち 子どもが安心して暮らせる南魚沼市をつくる</p>	<p>子どもが安心して暮らせる南魚沼市をつくる</p>
<p>南魚沼市に多世代の交流が生まれるしくみをつくる</p>	<p>南魚沼市に多世代の交流が生まれるしくみをつくる</p>	<p>多世代の交流が生まれるしくみをつくる</p>	<p>多世代の交流が生まれるしくみをつくる</p>

2014/11/15 17:13

1-1.資源_のテーブルのまとめ

1-1 南魚沼市の地域資源が活かされるまちにしたい

昨年のワークショップで導き出された方向性	現状はどうなっている？その課題や問題はどこにある？	将来あなたが目指したい南魚沼市のすがたは？(具体的に)	アイデア策・意見
		各産業で暮らしていけるまち(農・林・観とか)	
南魚沼市にある地域資源を(例えば、燃料や発電等のエネルギーとして)活用する方法を考える	森林に携わる職がもうからない(=林業が生業として成り立っていない)	豊富な森林資源を活用した産業のあるまち	市の木材を使ったきれいなまちなみを作る
	間伐材をペレット化してストーブに利用する等、木材を製品化してエネルギー資源として利用することは技術的には可能になっている。		リタイアした人が森林資源の保全をする→労働に応じてペレットストーブをプレゼント(ポイント制等)
	ペレットストーブ利用の補助制度はあるが、(周知不足の為か)住民に知られていない為か、一般家庭に利用が広まっておらず、資源としての木材(ペレット)の活用が進んでいない。		林業の健全化 育成するための資金を森林から得ること ※補助金は長続きしない！
	国内の木材を売っても儲からない為、間伐等がされず放棄されている林が多い →管理されない林には鳥獣が出やすい→管理されている林にも鳥獣被害が拡がる →管理費がかさむ→管理しきれない、という悪循環		鳥獣被害があるので狩りにかかる費用の減免 自分の木を植えて行う、貸し森林(あなたの孫の孫がこの木で家を建てられます)
	すごいスキー場がたくさんある！(小野塚彩那さん輩出した石打丸山スキー場)	オリンピック選手を輩出するまち	
	スキー場に外国人観光客が増えた	ウィンタースポーツをするために外国人が観光に訪れるまち	国際大学と協力して多国語を話せるガイドの育成をする
	田植えなどを地元の子どもが行なえば良いのにわざわざツアーリズムとして市外の子どもを呼んで行っている(地元の子供たちという活力(エネルギー)を利用できていない)		
	エネルギーを地産地消できるまち	捨てる資源の活用方法を考える	
	資源(主に人的資源)が流出せず、そして外からも入ってくるまち		
人間(人的資源)が市外へ流出して戻ってこない	地域資源を活用して人に来てもらうまち	海外の農業技術と日本の農業技術の共有 国際大学と協力して多国語を話せるガイドの育成をする (外の人向け)伝統行事体験ツアー 田中角栄の地として中国にアピール 兼続コンテンツの活用(痛車のようなもの) 南魚沼の地形等、独自性をPRして研究機関等を誘致する(高温多湿な地形など)	
同じ業種で別企業がもっと協力してPRしていけば良いのに	企業、行政などが連携して発信力と効率力の高いまち	産業間コラボアイデアコンテスト	
織物の活用がされていない		旧3町の要素を取り入れた商品 織物産業 コスト面から個人事業では困難な部分を行政が協力する(ユニクロなど大企業に掛け合っ服の素材として利用してもらってPRにつなげる等) スポーツなどのイベントを近隣市町村と共同で実施する	
		手先の器用な高齢者が作った編み物や折り鶴などの商品を海外で販売 これをやらせたら日本一・世界一という人材をたくさんつくる(色白日本一など) 各大学の農学部の施設の一部を南魚沼市に 既にいるマイスター(お年寄りetc.)も発見、活用？できる仕組みを作る	

1-1.資源_のテーブルのまとめ

南魚沼市の地域資源に新しい魅力を加えて、商品を開発し、販売する	コシヒカリが「南魚沼」産コシヒカリではなく、「魚沼」産コシヒカリとして認識されている	他にはない、南魚沼市の最上級の資源を全国、世界に発信し、注目を集めるまち	コシヒカリの市外出荷をやめて地産地消 南魚沼市に来れば食べられる
	モミガラを活用できていない		「雪室」のイメージを活用してプレミアム感を出す
			自然雪をお酒の水にして売りこむ
			雪を溶かして飲料水にする
		米粉パン	
		これをやらせたら日本一・世界一という人材をたくさんつくる (色白日本一など)	
		もっと美女が集まる	
熊の出没が多い	自然本来の姿で人を魅了するまち	自然を活かしたアスレチック	
		メインストリートは除雪せずにたくさん雪が積もる姿を敢えて観光客等に見せる(住民の利便性を考慮して、裏通りを実用性のある通りにする)	
		農業の楽しみ方、苦労を全部みせてそれでも来たいという人に農業学校を開校(弟子入り有)	
		ベアーロード	
		くまぞり	
		カモシカウォッチ	
		全てのクマに発信器をつけて居場所が把握できるようにする	
その他	登山道が分かりづらい		登山ツアーで登山口までバス運行を行う
	その資源が育った歴史を見直そう 雪-克雪、利雪、鈴木牧之、エネルギー(雪室)、スキー 米-鳥またぎ米→気候→ブランド化		

1-2.資源のテーブルのまとめ

1-2.南魚沼市の地域資源が活かされるまにしたい

<p>昨年のワークショップで導き出された方向性</p>	<p>現状はどうなっている？その課題や問題はどこにある？</p>	<p>将来あなたが目指したい南魚沼市のすがたは？(具体的に)</p>	<p>アイデア策・意見</p>
<p>雪の新しい楽しみ方、遊び方を提案する</p>	<p>スキーなど従来の遊び方がメインであり、スキー場ありきの考え方をしている。スキー場以外での雪の活用が出来ていない。田んぼがたくさん続いているのに、そこですることがない。</p>	<p>雪を見たことのない人たちにもっと来てもらえるまち</p>	<p>アイディア策・意見 スノーシュー しみわたり体験(タイミングが合わない)と難しいが) スケート等氷上のスポーツ 雪上ラジコン大会 大雪合戦 TV番組の「逃走中」を浦佐の雪上で開催 子どもたちに体験してもらおう。 雪の迷路をつくったり。 →TVの影響やSNSなどで、楽しさを画像や動画でアピール かまぐらの常設(管理する人がいれば可) かまぐらぶち壊し大会 スキー場や旅館にもかまぐらを設置</p>
	<p>雪まつり的なイベントしかない…(雪譜、裸押合い、市の雪まつり)旧時代の雪まつりとスキー場イベントは行政が絡んでいるのが多い。</p>	<p>雪がきっかけで地域の人の交流が活発なまち 雪の「他にない」楽しみ方を提供しているまち</p>	<p>冬限定の観光スポットとして、期間限定で雪像を作る かまぐらを使ってグルメツアー 雪像フェスティバル。雪まつりの雪像づくりを、家の前や観光スポットなど、身近なところにする市民主体の雪像コンテスト 雪おろしの競技化(丸太切り競争や消防の競技のように) 北越雪譜の雪の結晶を探そう！ 写真に撮って、写真展やコンテストを開催(雪まつりとは別のイベントで)雪の結晶を探そう。色々な形がある 雪関係の検定→様々な特典をつける</p>
	<p>市内の人は雪に対してイメージが悪く、雪に対して発想することが考えられない。朝起きて車の雪おろしの心配。雪は嫌だ。雪は何もしなくても降ってくるので、当たり前すぎて活用する意識がない。</p>	<p>雪をポジティブにとらえ、楽しく活用しているまち 雪を資源として活用しているまち</p>	<p>工夫次第で良いイメージに 今開放されていない施設の冬期間の開放、イベントなどに低価格で借りれる 冬になったら何をしようか楽しみになる使い方ができる施設がある 雪遊びはたのしい！ストレス発散！というイメージをPRできる市に。地元にとってストレスになっている雪をストレス発散のツール テートスポットで雪を使ったイルミネーションができれば。 雪の壁面を活かしてプロジェクションマッピングをする 雪の長いすべり台、トンネル 常設かまぐら。ただっぴろいところに雪の遊具やかまぐらをつくれば、それだけで東京の人は楽しい。 雪の冷蔵施設 雪を活用した資源(発電など)</p>
	<p>外部の人は雪に悪いイメージがない(東京の人、国際大学生など)子どもの頃は雪が楽しかった。大人になると面白さがわからない遊び方で楽しんでいる。</p>	<p>雪遊びの楽しさ、雪国の暮らしを発信し、観光客で賑わっているまち</p>	<p>白銀の景色をアピールして、雪を逆手にとり、雪の無いところの人たちを観光に呼込む 雪国の暮らしを都会や姉妹都市に紹介する、教える機会をつくる(小学生とか) ニセコ町が外国人のまちになっている。 外国人の人が惹かれる、何か共通するものがここにあるのでは？ オリンピック選手にPRしてもらう</p>
	<p>スキー客の減、スキー場の閉鎖。降雪量の多少で利益が左右される。昔、スキーをしていた人たちが、徐々にスキーをしに戻ってきつつある。スキー場が点在しているがつながりがない。色々楽しめない。スキー場が活用できていない。</p>	<p>各スキー場が独自性(オリジナル性)を持ち、スキー客で賑わっているまち</p>	<p>スキー場で自由に遊べる環境づくりが必要 国際大学の人は、スキー場でスキーを始めると、やがてスキーを使わずに自由に遊び始める 東南アジアの人は雪を見るためだけにやってくる。 スキー・スノーボード検定を毎日開催して「他にない」をPRする一気盛に来れる</p>
	<p>南魚沼市の地域資源、地域文化を若い世代に根付かせる</p>	<p>資源はあるけど知られていない(自然、食、歴史、地域の人柄)→もっとPR、発信が必要。効果的なPR出来ない。「巻機山(100名山)」「八海山(200名山)」「南魚沼産コンヒカリ」「牧之通り(江戸時代のまちなみ)」「田園風景(日本の原風景)」「裸押合い祭」坂戸山は歴史的に有名なのに何も残っていない</p>	<p>地域を愛せる教育をして、地域に誇りをもてる人を育むまち</p>
<p>エリア毎でやってることバラバラで、市内の観光が面的になっていない。施設単位でしか案内出来ない。</p>		<p>統一感あるまちなみを見に、観光客で賑わっているまち</p>	<p>牧之通り以外にも 美女旅モデルが案内する 日常的に街の中に気軽に寄って楽しめる拠点がある 客席のように定期的に公演している場所を 外湯や射的などの歩いて楽しめる遊戯施設を設ける</p>
<p>若い人になじみがない文化が多い？歌舞伎などでは敷居が高い文化がどんなものがあるか分からない。北越雪譜は最古のライフスタイル誌ではないか？という東京の人のななし。</p>			<p>南魚沼アーカイブスを作る 右者が雪国文化を調べ、発表する大宴(日本全国の右者から募集) 本知科学士館常設展示場が出来る 暮らしを再現するのも良い？ 映画の題材に取り上げてもらう 北越雪譜の世界を大事に</p>
<p>人のやさしさ、素朴さ</p>		<p>お年寄りや自然と交流し、多世代交流のあるまち</p>	<p>昔ながらの言葉を教育に取り入れる。 よそのおばあちゃんから教えてもらったり。</p>
			<p>閉鎖的であることを利用する。作家のカンヅメ、勉強合宿、依存症の治療など 雪との付き合い方を地元から発信(安全な雪下ろしの仕方など)知りたい人に興味を持ってもらえる。 雪下ろし検定をつくるのも良い。→資格者に対して特典があると良い。 スノーダンプの輸出をして、最近雪が降るようになってきた自治体へ売る</p>

2.働くのテーブルのまとめ

2.南魚沼市を若者が働きやすい、にぎわいあるまちにしたい

昨年ワークショップで導き出された方向性	現状はどうなっている？その課題や問題はどこにある？	将来あなたが目指したい南魚沼市のすがたは？(具体的に)	アイデア策・意見
これからの世代が起業しやすいような環境やしぐみを南魚沼市につくる	テナント料が高いため、継続して店舗を持つことが難しい。	店舗を持ちやすい環境があるまち	1～3年位お店を出せる場所の提供をする。 行政からチャレンジ店を作り、起業家にチャレンジさせる。
	都市部に比べて職種が少ない。		
	起業に関してどこに相談すればいいのかわからない。	起業に関してバックアップ体制があるまち	起業に関しての専門家がいる。 起業の世話をしてくれる場所がある。
	学校で起業について学ぶ機会がない。 南魚沼市内にどんな企業があるか知らない。 どんな仕事をしている人がいるのかわからない。	学生に起業に関して学ぶ機会があるまち	学校で起業・経済の勉強する。
	人が少ないので他業種の人と話をする機会が少ない。		
南魚沼市の起業家の商品・サービスがより普及していくためのしぐみをつくる	組合がある。 組合内の連携が取れていない。 「南魚沼市」のブランドがある。(米、雪など)	関連機関がつながりあい、協力体制が整っているまち 海外にも商品・サービスを売り出す機会があるまち	同じ職種などの取り組み、イベントなどを紹介する雑誌を作る。
若い人が駅前や商店街、都市機能の拠点に、商業としてのにぎわいを生み出すしぐみをつくる	様々なイベントなどで盛り上がりがある。	人のつながりから人の輪が広がっていくまち	駅前を歩行者天国にする。 学校などでもイベントの周知をする。
	駅前が空き地、空き店舗で寂しくなっている。儲からなそうなので起業したくない。	チャレンジできる場があるまち	行政からチャレンジ店を作り、起業家にチャレンジさせる
	楽しいなショッピングが出来るお店が少ない。商店街を利用して買い物しない。ほしいと思うものが商店街にない。		地場産の商品を道の駅や駅前で販売する。
		歩きたいまち	統一感ある街並みを作る。 ランドマーク(目印)のあるまちにする。
	特定の人だけがイベント等に出店している。	誰でも気軽にイベントに参加できているまち	海外では毎週フリーマーケットを実施し、周知している。

3.育つ_のテーブルのまとめ

3.南魚沼市を子どもが育つまちにしたい。子どもが育てやすいまちにしたい。

昨年ワークショップで導き出された方向性	現状はどうなっている？その課題や問題はどこにある？	将来あなたが目指したい南魚沼市のすがたは？(具体的に)	アイデア策・意見
親子が安心して暮らせる南魚沼市をつくる	子どもの通学路、学校や保育施設の周りに街灯がなかったり、暗い所がある。道幅、死角など危険要素がある道路がある。車のドライバーが子どもにやさしくない。	子どもが事故や犯罪に巻き込まれない、安心して過ごせるまち	設置のやり方がよくなかったため、見直しや増設をしていく。各地域に案内板を設置する。
	不審者がいる。学生寮に不審者が侵入した。		暗がりでも子供から挨拶をする先にあいさつすることで不審者を防ぐ
	給食に、子供にあわないメニュー(呑み屋のつまみみたいなもの)がでる。	安心な食事で子どもが育つまち	地元産の有機野菜を使って給食を作る
	保育園が休みの日やってない。一般の人がつかえる託児所がない。	子育てをしながらでも働き続けられるまち	子どもを預けるボランティア
			リタイヤした年代の人が子の見守りができるシステムをつくらう
	ショートステイの宿泊型が話題(2,000円) 子どものショートステイお泊り型ってな		
		アトピー、アレルギー、病児、病後児、24時間保育、年中無休、柔軟な保育 3人目の子供に1,000万円 企業が200万、市が800万 義務教育卒までくらい	
親子が共に学び育つ南魚沼市をつくる	雨天時の遊ぶ場所がない。(土日祝日) 全天候型の親子で遊べる施設がない。安全を考えすぎて危険なことをさせないという考えが強い。(バンジージャンプの発祥を考えてみよう) 親に時間がない(仕事がつまっている) 子どもと触れ合う時間がない。親子でスキーにも行けない。	悪天候でも親子で体を動かして遊べる場所があるまち	全天候型の親子が遊べる施設をつくる
		子どもが自ら考え、判断力を育ていけるまち	危険な遊びをおこなう教室を開催する
		体験を通して、親子が成長するまち	遊びを通して本物の「学」が学べるカリキュラムをつくる。共に学ぶ親子での体験学習ができれば子どもの「ほうにん子育て」スキルを学ぶ場をつくる。
			～さん、～くと敬称で呼ばない先生と生徒の付き合い ファミリーでスキーに行き、安くする取り組み。
	農業は学校ではやるが、家の手伝いはあまりしない。	学校の中だけでなく、地域で学びや体験ができるまち	子どもの目標になるような人を育てる ex.小野塚彩那選手 野菜を作っているところで「お手伝い」をさせてほしい。 来て教えてもらうのではなく、子どもが出向いて手伝うように。
南魚沼市に多世代の交流が生まれるしくみをつくる	祭りにしても神輿の担ぎ手が不足している。祭りで子どもはゲームをやっている。	地域の伝統文化で他世代間のコミュニケーションがとれているまち	多世代の人が集まる場所(安く)を創設 子どもたちが祭りをプロデュースする
	子どもが地域イベントに参加しにくい。中学～高校生には周知・宣伝されない。	地域の情報がすべての市民に行き渡っているまち	
	子どもが地元を知らない。子どもが若者、高齢者と接する機会ある？ 村祭り、駅伝、消防団など機会はあるが、村単位でその先の広がりに欠ける。	全世代で継がりがあり、いろんな世代が集まる場所があるまち	多世代の人が集まる場所(安く)を創設。 全世代集まれる場所・集まる仕組みをつくる。
			リタイヤした年代の人が子の見守りができるシステムをつくらう 子どものパソコン教室 子供から親、おじい、おばあに教える 子どもがインターネット、SNS、ケイタイの使い方を教える。 高齢者が教えるところ
	シニア世代(リタイア後の方々)が元気なまち	大人のリーダーではなく、お年寄りのリーダーをつくる 学ぶ	
その他			子に読み聞かせできる南魚沼市の話がある
			小学校を減らさないで
			ランバカ×女子力のコラボレーション